

よいこのあんぜんニュース

2025年(令和7年)12月8日発行 470号付録

少年写真新聞 株式会社 少年写真新聞社
Junior Visual Journal

〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14 HF九段南ビル URL <https://www.schoolpress.co.jp/>
©少年写真新聞社 2025 年 ※著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が変わりましても購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。

危険を予測してやけどから子どもを守りましょう

全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子

今年もあっという間に一年が過ぎ、最後の月となりました。朝晩の寒さが日ごとに厳しくなり、冬が深まってきました。寒くなると暖を求めて暖房器具を設置したり、熱い飲み物、温かい食事をする機会が増えたりします。その際に心配されるのが、子どものやけどです。やけどをしやすい場面を知り、やけどをしないようにすること、万が一やけどになった場合の対応の仕方を大人が知り、子どもが安全に過ごせるようにしましょう。

「熱さが分かりにくい」という危険

冬になると、日頃の電化製品や調理器具に加えて、暖房器具が使用されます。これらの製品には高温になった際には停止するなどの安全対策が講じられていますが、やけどを防ぐことにつながらない場合もあります。例えば、ガスこんろ、魚焼きグリルの扉、アイロン、ヘアアイロンといったものは、使用後、冷えるまでに時間がかかります。

また、炎が出て見えるもの、赤やオレンジといった炎を彷彿とさせるものは、大人も幼児も熱さを想像しやすいのですが、熱い飲み物、IHクッキングヒーター、炊飯器や電気ポット、電気ケトルから出る高温の蒸気など、視覚から判断が難しいものもあります。

カイロや湯たんぽなど高温ではないものでも、長時間肌に触れていることでやけどに至る「低温やけど」もあります。初めは見た目には異常がなくても、皮膚の深い部分が傷ついてしまっています。

やけどにつながるケースはほかにも

やけどは、器具の接触によるものだけではなく、テーブルクロスを引っ張ったり、コードに引っ掛かったりつまずいたりして倒れた電気器具やこぼれた熱湯がやけどにつながります。

予防と応急処置

まずは、大人がやけどにならないように配慮することが必要です。高温になる器具を使用する時は、子どもを近づかせず、使用後、十分に冷めるまで子どもの手の届かない場所に置きましょう。万が一、やけどを負ってしまった場合は、初期の対応が大切です。子どもの皮膚は大人より薄く、肌のバリア機能を担う角質層が大人の三分の一から二分の一程度しかないそうで、短時間で危険な状態になります。すぐに容器にためた冷水や水道水・シャワーの冷水(直接患部に当てないようにする)で、じっくり、しっかり冷やしましょう。服が皮膚についている場合は、脱がさず服の上から流水で冷やします。細菌感染を避けるためにも、患部に触らず、水ぶくれはつぶしません。

やけどの範囲が広いなどの緊急の場合は、ためらわずに119に電話を掛け、救急車を要請しましょう。すぐに、病院に行った方がよいのか、救急車を呼ぶべきなのか判断が難しい時は、救急安心センター事業(＃7119)に電話を掛け、相談しましょう。

あんぜんだより

監修 全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石見子先生

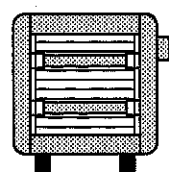


冬はやけどが増える季節 しっかり注意して安全に過ごそう

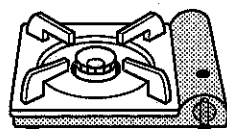
今年も早いもので、もう12月がやってきました。日ごとに寒さがつのる、これからの季節には、暖房器具や調理器具、熱い飲食物などによるやけどの危険が増えてきます。まずは、やけどをしないこと、そして、やけどをした時の対応を身につけ、安全に過ごしましょう。

あつく なる どうぐを おぼえる

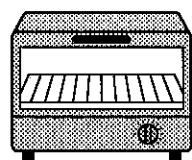
あつい ことが わかりやすい どうぐ



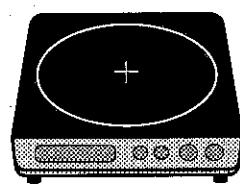
すとーぶ



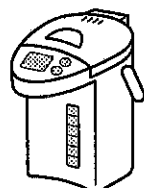
ガスこんろ



オーブンとトースター



IHクッキングヒーター



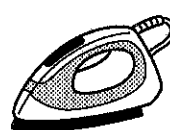
ゆわかし
ぽット



すいはんき



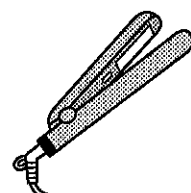
ほっと
ぶれーと
プレート



あいろん
アイロン



どらいや
ドライヤー



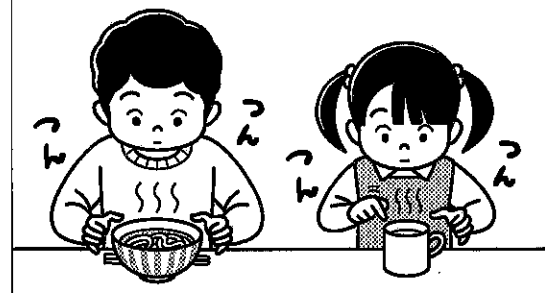
へああいろん
ヘアアイロン

あつい ことが わかりにくい どうぐ

ひが ついたり あかく ひかる ものは あつそうだけど
みためからでは あつさが わかりにくい ものも あるよ。

保護者の方へ ストーブやガスこんろ、オーブントースターなど、炎が出たり赤く光ったりする道具は、熱さがわかりやすいですが、炊飯器や湯沸かしポット、ホットプレートなど、見た目からは熱さがわかりにくい道具には、注意が必要です。また、幼児に身近な道具ではありませんが、保護者の使うアイロン、ヘアドライヤー、ヘアアイロンなども、見た目では熱さがわかりません。使用後に冷ます時は、必ず子どもの手が届かないところに置いてください。やけどの対応は、とにかく十分に冷やすこと。そして必要に応じて病院を受診しましょう。

あつい たべものや のみもの



あつさを たしかめてから
うつわに さわる。

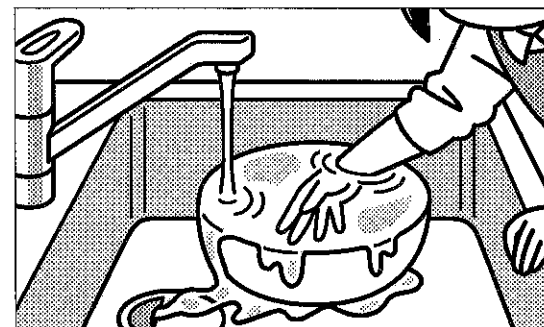


たべたり のんだり する
まえに すこし さます。

やけどを して しまった ときは



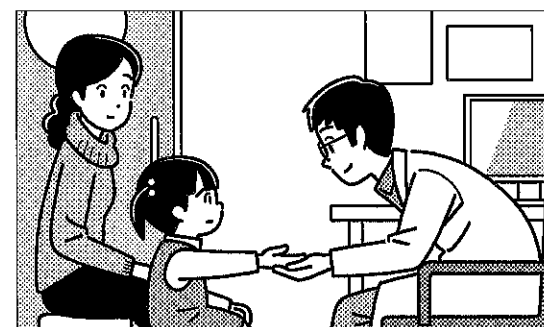
すぐに おうちの おとなの
ひとを よぶ。



つめたい みずを ながして
しっかりと ひやす。



みずぶくれに なったら
つぶさないように する。



やけどが ひどい ときは
びょういんで みて もらう。

1月号では「人が集まる場所での注意」
について取り上げます。

今月の掲示用ニュース 指導例

ねらい やけどをしやすい器具を覚え、むやみに触れないように注意させる



展開例

私たちの身の回りには、気をつけないと、やけどをしてしまうものがあるよ。

【一番上の枠の写真を示しながら】赤くなっ

ている電気ストーブは、絶対に熱いので、触らないでね。また、アイロンやヘアドライヤー、ヘアアイロンは熱くなっているけど見た目ではわからないから、触らないでね。

【2～3番目の枠の写真を示しながら】お湯を沸かしたり食べ物を煮たり焼いたりする道具も熱くて、触るとやけどをするよ。使い終わってすぐでも、熱いから触らないでね。いろいろな入れ物に入った熱い食べ物や飲み物も、こぼすとやけどをするよ。入れ物を倒さないように、気をつけてね。

【一番右のイラストを示しながら】もし、やけどをしたら、すぐに水で冷やそうね。水ぶくれができて、つぶしちゃだめだよ。

命に関わる「やけど」の程度・段階

～中等症以上で救急車の要請が必要となる場合も～

私たちの体は、やけどをするほど熱いものに触れると、瞬間的に体をそれから離そうとします。これは、「熱い」ということを過去に学んでいることで起こる反応ではなく、熱いものに触れた瞬間に危険を察知して自動的に回避するための反応で、「無条件反射」といいます。つまり、やけどは、そのぐらい自身の体に被害を与えるものであることを、前提として覚えておく必要があります。

やけどは、深さによってⅠ～Ⅲ度に分類され、Ⅱ度はさらに浅いものと深いものとに分かれます。赤くなる程度(Ⅰ、Ⅱ度の浅いやけど)で痛みを感じる場合、素早く応急処置を行えば、比較的すぐに治るのですが、Ⅱ度の深いやけど、Ⅲ度のやけどでは見た目が白や黒になり、神

経まで損傷して痛みを感じなくなります。治るのにも時間がかかり、程度によっては後遺症を残すことがあり、手術が必要な場合も出てきます。

また、子どもの場合、Ⅱ度とⅢ度のやけどが体表面の10～20%以上、Ⅲ度だけなら2～5%以上で、入院治療の必要のある中等症以上となります。ただし、顔面や手指、足、会陰部などの特殊部位のⅡ度、Ⅲ度のやけどは重症となり、救急専門施設での入院治療が必要となります。

なお、熱湯などの明らかに熱いものではなく、使い捨て懐炉などの比較的温度の低いものでも、長時間当て続けると、やけどになります。「低温やけど」といい、Ⅲ度のやけどになりやすいので、注意が必要です。

参考 (一社)日本熱傷学会ウェブサイト ほか